



シュモーさんが のこ 残してくれたもの



© ^{へい わ}平和の^{たいせつ}大切さを^{つた}伝える^{にほん ご きょうざい}日本語教材をつくる^{かい}会

^{きょうりよく}協力: NPO サダコレガシー シュモーに^{まな}学ぶ^{かい}会

^{ながさきげんぱく しりょうかん}長崎原爆資料館

^{ひろしまへい わ きねん しりょうかん}広島平和記念資料館

2 「ヒロシマの家」プロジェクトを立ち上げる つづの続き

3 「ヒロシマの家」をつくる

1) ひろしまえき 広島駅で

えき 駅につ着いたシュモーさんたちは、れっしゃ 列車の窓から
たくさんのに もつ 荷物を次々とつぎつぎ 下ろしました。プラット
ホームは、すぐにに もつ 荷物でいっぱいになりました。

に もつ 荷物を持っても 歩き始めたシュモーさんたちの
ほう 方に、たくさんの人ひと が急いいそ で走はし ってきます。

なか その中には、ひろしまけん 広島県知事、ひろしま 広島市 し 長、しんぶん 新聞記者
を始め、はじ 約 やく 30人 にん もの学生たちがいました。がくせい

むか 迎えに来た人たちは、シュモーさんたちは、切
ふ 符の値段ね だん が高い車たか 両しゃりょう に乗の ってくるとおも
うのです。でも、シュモーさんたちが、いちばんやす 一番安しゃ い車

りょう で
両 方から出てきたので、みんなびっくりしました。

しんぶん き しゃ
新聞記者は、シュモーさんたちにインタビュー
をししたり、しゃしん と
写真を撮ったりしました。シュモーさ
んは、こんなにたくさんの人が駅まで来てくれる
とは思っていませんでしたから、びっくりしまし
た。

ご
その後、シュモーさんたち10人は、にん きょうかい い
教会に行
きました。ひろしま あいだ きょうかい と
広島にいる間、その教会に泊まるこ
とになっていました。

2) はじ にほん いえ た 初めて日本の家を作る

① ひろしま し はな あ 広島市と話し合う

シュモーさんは、すぐにいえ た
家に建てたいとかんが
てていました。ところが、ひろしま し
広島市は、シュモーさん

たちにどんな建物^{たてもの}をどこに建て^たててもらうか、まだ
決^きめていませんでした。市民^{しみん}のことを一番^{いちばん}に考^{かんが}
える中^{なか}で、子ども^このための図書館^{としょかん}を建て^たててほしい
など、色々^{いろいろ}な思^{おも}いがあったのです。

シュモーさんのプロジェクトとは別^{べつ}に、広島市^{ひろしまし}
はその時^{とき}、皆実町^{みなみまち}に約100戸^{やくひゃっこ}の家^{いえ}を建て^たてようと
していました。それで、みんな^{はな}で話^{はな}して、100
戸^この内^{うち}の4戸^{よんこ}の家^{いえ}をシュモーさん^{はな}たちが、建て^た
ることになりました。

② 大工^{だいく}を雇^{やと}う

シュモーさんはアメリカやヨーロッパ^{いえ}で家^{いえ}を
建て^たてたことはありましたが、日本^{にほん}の家^{いえ}を建て^たてるの
は初^{はじ}めてでした。アメリカと違^{ちが}って、日本^{にほん}の家^{いえ}は

き かみ つか なに
木や紙を使っていました。それで、何もわかりま
せんでした。

かべ つち みず わら ま く たけ うえ
壁は、土と水と藁を混ぜて、組んだ竹の上に
ぬ
塗ります。

いね わら
稲の藁



©2022 橋本玲子

かべ ぬ
壁を塗るシュモーさん



© 寄贈:ブルックス・アンドリュース氏

提供:広島平和記念資料館

や ね かわら お
屋根には、瓦を置きます。

かわら つち や かた
瓦：土を焼いて固めたもの



じん
アメリカ人のシュモーさんだけでなく、仲間の
にほんじん にほん いえ た
日本人も、日本の家を建てたことはありません。
だい く き おし さ
大工さんに来てもらって、教えてもらいながら作
ぎょう
業することにしました。

ひろしま わか ひと にん くわ なか ま
やがて、広島の若い人6人も加わって、仲間は
にん ふ
16人に増えました。

③ 材木を運ぶ

まず、材木店に行って、たくさんの材木を買いました。そして、それを荷車に載せます。

原爆から まだ4年しか経っていません。広島
の道は まだ凸凹です。荷車で運ぶのは、とても
難しく、押す人も引く人も、よろよろしながら
運びました。

家を建てる場所までは、2キロもありました。
焼けるような暑さの中、2キロの道を重い荷車で
運びました。みんな 汗が だくだく、服が びしょ
びしょ……。

④ 真夏の作業

土を掘ったり、材木を切ったり、釘を打ったり、

つち みず わら ま かべ ぬ はじ
土と水と藁を混ぜて壁に塗ったり、どれも初めて
さぎょう いろいろ しっぱい なお
の作業です。色々な失敗をして何回も やり直し
ました。

ざいもく
材木を

き
切る



© 寄贈: ウィルフレッド・P・シュモー氏

提供: 広島平和記念資料館

つち
土と

みず
水と

わら
藁を

ま
混ぜる



© 寄贈: ブルックス・アンドリュース氏

提供: 広島平和記念資料館

おも かわら や ね うえ はこ ひ とり
重い 瓦 を屋根の上に運ぶのは、一人ではでき
ません。はし ご した かわら わた ひと はし ご ま ひと
梯子の下から 瓦 を渡す人、梯子で待つ人、
や ね うえ う と ひと つぎつぎ かわら わた
屋根の上で受け取る人。次々と 瓦 を渡していき
ます。む あつ に ほん なつ あせ なが
蒸し暑い日本の夏、みんな汗を流しながら
はたら
働 きました。

はし ご
梯子の

した
下から

かわら わた
瓦 を渡す



き ぞう
© 寄贈:ウィルフレッド・P・シュモー氏

ていきよう ひろしまへい わ き ねん し りようかん
提供:広島平和記念資料館

いっしょ ねっしん さ ぎょう
みんなと一緒に 熱心に 作業しながら、シュ
モーさんは いつもやさしく 声をかけました。

だいじょう ぶ
「Are you all right? (大丈夫?)」

だれ き
誰もが聞きやすいように、ゆっくりと。

3) シュモーさんの^{ねが}願い

❶ 「ヒロシマの家」^{いえ}プロジェクト

世界には色々な国や宗教があります。国が違う人、宗教が違う人、色々な人が集まって同じ目的のために一緒に働くとお互いのことがよくわかるようになります。人々は友達ちになっともていきます。そこから、平和が生まれていきます。

シュモーさんの^{ねが}願いどおり、みんな助け合たす あって
一緒に仕事をしました。仕事は大変でしたが、
楽しそうな笑い声たのが聞きこえることもありました。

とうじ
当時の アメリカでは、^{はくじん}白人が^{こくじん}黒人と^{いっしょ}一緒に

さぎょう　しゅくはく　かんが
作業したり、宿泊することは考えられません

でした。でも、シュモーさんたちアメリカ人^{じん よ にん}4人

なか こくじん なか ま いっしょ きょうかい と
 の中には 黒人の仲間もいて、一緒に 教会に泊

まっていた。まっていた。

そのきょうかい教会では、とうきょう東京から来たき日本人仲間にほんじんなかまも、

しょくじ ようい かたづ せんたく きょうどう
食事の用意、片付け、洗濯などをしながら、共同

せいかつ
生活をしました。

やす　　ひ　　かわ　　およ　　い
休みの日には、みんなで川に泳ぎに行ったり、

いえ まね まつ で たの
家に招かれたり、お祭りに出かけたりにして、楽し

い^じ時^{かん}間^すを過^すぎました。

まいばん あつ いろいろ はなし
毎晩、みんなで集まって、色々な話をしました。

かんが　かた　ちが
考 え 方 が 違 う こ と も あ り ま し た 。 で も 、 だ ん だ ん

理解を深めていきました。

ねん けんせつげん ば お けい じ ばん
1951年 建設現場に置かれた掲示板



「ヒロシマの^{いえ}家」

ワーク・キャンプ・プロジェクト

- 1 お互い^{たが}を理解^{り かい}するために
 - 2 家^{いえ}を建^たてることで
 - 3 平和^{へい わ}になりますように
- 祈 平 和 (いのるへいわ)

② ^{ひと}人がつながる

いえ た ばしょ つか ちい
家を建てていた場所には、使っていない小さな
と ち
土地がありました。シュモーさんは、そこにぜひ
に ほんふう にわ つく おも
日本風の庭を作りたいと思っていました。

ある日、近所の小学校の子どもたちが、先生と
一緒にやって来ました。外国人と日本人が家を作
るのを見に来たのです。子どもたちはシュモーさ
んたちに色々質問しました。

すうじつ ご こ にん き にわ つち
数日後、子どもたち3人がまた来て、庭に土を

はこ き せんせい ははおや き
運んでくれました。先生や母親も来てくれました。

こま とき
困ったことがある時は、みんなにどうしたらいい
のか聞きました。すると、すぐにだれ たす
くれるようになりました。シュモーさんたちの家
づくりプロジェクトの輪は、どんどんひろ
がっていききました。

つち はこ
土は 運んだのですが、シュモーさんたちは、
にほんふう にわ し
日本風の庭をどのようにつくるか知りませんでした。
とき かいしゃ にほんふう にわ み
そんな時、ある会社で日本風の庭を見て、
シュモーさんは、とてもきい
気に入りました。

にわ
「こんな庭をつくりたい！」

いと
とシュモーさんが言うと、

「では、この庭^{にわ}をつくった庭師^{にわし}を手伝^{てつだ}いに行^いかせましょう」

と、会社^{かいしゃ}の人^{ひと}が言^いってくれました。

シュモーさんは、喜^{よろこ}びました。そして、どんな

庭^{にわ}にするか、その庭師^{にわし}と一緒^{いっしょ}に考^{かんが}えました。

おお 大きな石^{いし}と池^{いけ}、そして、まつ 松^{まつ}やもみじ 紅葉^{もみじ}などがある日^に
ほんふう 本風^{ほんふう}の庭^{にわ}です。

いけ 「池^{いけ}のそばにはベンチを置^おきたい。石^{いし}の灯^{とう}ろう
も置^おきたいなあ」

と、シュモーさんは言^いいました。

すると、それを聞^きいた建設^{けんせつ}会社^{がいしゃ}の人^{ひと}が、ベンチ
いし になる石^{いし}をくれました。その会社^{かいしゃ}の人^{ひと}たち^よ 4人^{にん}が、
はこ トラックで運^{はこ}んでくれました。

いし　とう　ひろしま　し　よう　い
石の灯ろうは、広島市が用意してくれました。

「この灯ろうに、『 THAT THERE MAY BE PEACE
(祈平和/いのる　へいわ)』の文字を刻みたいなあ」

と、シュモーさんは言いました。

すると、広島大学の先生が、文字を書いてくれ
ました。たくさんの人たちが手伝ってくれて、つ
いに日本風の庭が完成しました。

いま　みな　み　まち　いし　とう
今も皆実町にある石の灯ろう



③ いえ 家ができた！

シュモーさんたちが建てていた家には、当時として珍しく、台所とトイレがあります。畳の部屋には、床の間も付いています。家の外には、洗濯物を干す場所、野菜を育てる場所もあります。

とこ ま
床の間



1949年10月「ヒロシマの家」の完成が近づきました。シュモーさんたちが建てた4戸の家を、広島市に寄付する式が開かれることになりました。



© 寄贈:ブルックス・アンドリュース氏 提供:広島平和記念資料館

ひろしま し しんぶんしゃ しき しょうたいじょう だ
 広島市は、新聞社などに式の招待状を出しま
 した。

ところが、^{ひろしま}広島市が^{しんぶんしゃ}新聞社などに^{おく}送った^{しょうたい}招待状を見て、^{じょう}シュモーさんはびっくりしました。

つづ
(続く)

DO NOT REPOST! Reimpresión prohibida Hak Cipta Terpelihara
 ခွင့်ပြုချက်မရှိဘဲ ပုံများပြန်လည်ထုတ်လုပ်ခြင်းကို တားမြစ်ထားသည်။ 복제 금지. ©